



ぽーれぽーれ(Pole pole)  
スワヒリ語で  
「ゆっくり…」  
という意味です

# ぽれぽれレター ぽれぽれレター

第26号  
2015.05.20

## 医療コラム

### 医療安全について



#### 理念

「人とよりそう ひらかれた病院」

#### 病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します  
※医療提携を進め、地域医療に貢献します  
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

#### 診療案内

内科 外科 脳神経外科  
整形外科 耳鼻咽喉科  
婦人科 泌尿器科 放射線科  
消化器科 緩和ケア科  
乳腺外科 腫瘍外科

#### 【診療受付時間】

午前8:30～正午

#### 【診療時間】

平日 午前9:00～午後5:00

土曜 午前9:00～正午

#### 【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

#### 【お見舞い時間】

正午～午後8:00



彩都友誼会病院の病院基本方針の一番目に「安心・安全ながん医療を提供します」とあります。医療の安全に対する皆さまの関心はますます高まっていることと思います。



医療安全委員会委員長  
高橋正嗣 医師

#### 医療事故の考え方の変化

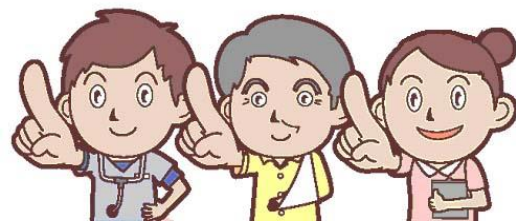
近年、医療事故に対する考え方は大きく変わりました。1990年代までは、医療事故はあってはならないことであり、事故は個人の不注意や意識の低さによって起きるという考え方が支配的でした。しかし、2000年代に入ってから、医療事故は起こりうることとして捉えるようになり、事故を起こした当事者を責めるのではなく、事故を分析し、システムの見直しや組織全体の在り方の改善によって、事故に至ったリスクのレベルを下げることで将来の事故を減らし、事故が起こっても大きな障害に至らないようにするにはどうすればよいかを考えることが重要であると考えるようになってきました(「TO ERROR IS HUMAN (人間は間違える)」: 1999年アメリカ Institute of Medicine より)。

#### 彩都友誼会病院での取り組み

こういった考え方を基礎とし、彩都友誼会病院では、病院長のリーダーシップのもと、医療安全委員会を中心に職員全員がそれぞれの立場から医療安全の問題にかかわり、患者様の安全を確保しつつ必要な医療を提供していくために積極的な取り組みが行われています。

#### ○ 専任医療安全管理者の配置・医療安全委員会の設置

厚生労働省が指定する医療安全に関する講義を受けた、専門的知識をもったものが医療安全管理者として任命され、病院内の医療安全管理にリーダー的役割を果たしています。病院長から安全管理のために必要な権限を委譲されています。また、病院長直属の組織として医療安全委員会があります。医療安全委員長、医療安全管理者、副委員長、各部署のリスクマネージャからなり、医療安全対策の検討や病院内の見回り、医療事故が起きた際の対応などを行っています。



#### ○ 事故や、危うく事故になりかけた事例の報告

当院の医療安全対策は、日常診療で起きたミスやエラーの報告をもとに行われています。アットハットノート（患者様への実害のない、ヒヤリ、ハットした事例の報告）、インシデントレポート（簡単な処置や治療を要した事例や、観察強化や、安全確認のための検査を要した事例の報告）、医療クオリティ審議依頼書（濃厚な処置や治療を要した事故、患者様に永続的な障害や後遺症を残してしまった事故、死亡事故の報告）からなります。報告された事例は医療安全管理者を中心としたメンバーが調査をし、医療安全委員会で分析・検討され、事故予防対策、再発防止策の策定に用いられ、職員全員に報告、周知されます。また、医療安全委員会はこれらの改善策が各部署で確実に実施され、有効に機能しているかを点検、評価、見直しをしています。

#### ○ 医療安全のための研修

当院では、病院全体の医療安全の向上を目的として、全職員に年2回の研修会出席を義務づけています。医療安全委員による講義や、院内での事例の検討会、外部講師を招いての講習会などが行われています。



## おわりに

安全は「終わりのない勝利なき長期のグリラ戦である」と言われています(J. Reason 「組織事故」より)。決して勝つことはなく、決して終わらず、敵は潜伏していて発見しにくく、手を抜くとやられる、大変困難なものです。しかし、それでも立ち向かっていかなくてはならないのが医療安全です。最近では、医療安全にかかわる組織(チーム)の一員に患者様も加わるべきだと考えられています。転倒防止のために履き物にご留意いただいたり、確認のためにしつこいくらい何度もお名前をうかがったり、入院時には刃物など危険なものの持ち込みをご遠慮いただいたり…。日ごろの医療安全に対する患者様のご理解、ご協力には感謝しております。また、転倒を防止するために、ベッドから離れるときやお手洗いのあと立ちあがるときなど、「これくらいは大丈夫」などと思って無理をせず、遠慮せずにナースコールを鳴らしてください。ちょっとした遠慮や過信が思いもかけない大事故につながる可能性もあります。そして、患者様の側からも、もし、「これは危ないな」とか、「何か変だな」と思われた時には、ご遠慮なく医療スタッフに声をかけてください。皆さまと一緒に、より安心・安全な医療を提供できる病院になっていければいいと思っています。

## 新入職員紹介



2015年4月、10名の新入職員(看護師5名・薬剤師1名・看護助手3名・クレーン1名)が加わりました。新メンバーを加えると、4月1日時点で医師13名、看護師131名、薬剤師7名、診療放射線技師13名、臨床検査技師5名、理学療法士4名・言語聴覚士1名、作業療法士1名、臨床工学技師1名、臨床心理士1名、管理栄養師3名、看護助手26名、クレーン11名、SE1名、診療情報管理士2名、医事課8名、総務5名、地域医療連携4名、秘書1名、保育士8名、保育助手2名 総勢248名となります。その他、外来診療については約30名の非常勤の先生方にご協力を頂いています。



新入職の皆さんと一緒に写っている方々は、下段左から東村看護部長・香嶋事務長・中村病院長・林理事長・上森薬剤部長・榎原技師長です。

○新採用者オリエンテーションを担当された看護部教育委員会委員長・がん看護専門看護師の渡壁晃子さんから、コメントを頂きました…

『当院が専門としているがん医療は、多くの専門領域をもった医療関係者の協力があって初めて十分な成果をあげることができます。患者さんやご家族が抱えるさまざまな心配ごとにそれぞれの専門職が協力しながら対応することで、治療方針や療養場所などに希望を反映することができます。当院では職種を問わず新採用になったすべてのスタッフを対象に、約2日間のオリエンテーションを実施しています。オリエンテーションでは、院長によるがんの集学的治療に関する講義や各職種の理解を深めることを目的とした各部門の紹介などが行われます。

チーム医療を円滑に運営するには、コミュニケーションが要になるといわれています。職種を超えたスタッフのつながりが強化できるように、今後も院内教育の内容や方法を工夫していきたいと思えます。』

編集後記：夏が足音をたてて着実に近づいて来ていますね。今年は台風の発生も多いようです。天候の急変に対する防災意識を高め、暑い夏を乗りきるための体調管理にも注意してください。(福西)

発行者：中村仁信(病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号  
編集長：福西康修(放射) TEL072(641)6898 Fax072(641)6097  
編集委員：村井祐子(医師) 岩切昭夫(看護) 常島啓司(情報)  
志田原直子(医事課) 春名雅裕(リハビリ) 東阪真希(放射)



<http://www.saito-yukoukai-hp.jp/index.htm>

「ぼれぼれ」はホームページからダウンロードできます!

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい